

平成30年度学校関係者評価書

1 本年度の学校経営

(1) 重点目標

ア 学習指導の充実により、学習に対する意欲・関心を育み、確かな学力の向上を図るとともに、自らの考えを的確に伝え他と共有する態度・能力を育成する。
イ 生徒理解を基盤とした生徒指導の充実により、規範意識や基本的生活習慣の定着を図るとともに、困難に負けない強い心と他を思いやる豊かな心を育成する。
ウ 発達段階に応じた健康・安全指導の充実により、体力の向上を図るとともに、自他の健康安全を適切に守る態度を育成する。
エ 「部活動休養日等の完全実施」に向けて、部活動の指導・運営に係る体制を構築する。

(2) 学校経営方針

ア 生徒一人ひとりが主体的に学び、自らの能力を研磨する学校づくりを推進する。	エ 保護者と地域、学校の連携を重視するとともに、期待に応える魅力ある教育活動を展開し、信頼される学校づくりを推進する。
イ 生徒一人ひとりの感性と倫理観を培い、協調性と社会性を育む学校づくりを推進する。	オ 生徒や担当教員の健康・安全はもとより、生徒のバランスのとれた生活や心身の成長に配慮するため、働き方改革の視点を盛り込んだ部活動運営を推進する。
ウ 目指すべき学校像を名買うにして、教職員の学校経営参画意識と共同意識を高めるとともに、互いに夢を語り、チームで切磋琢磨する学校づくりを推進する。	

(3) 学校関係者評価基準

自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
A 適切な評価である	A 十分な効果が期待できる
B ほぼ適切な評価である	B ほぼ十分な効果が期待できる
C やや不適切な評価である	C あまり効果が期待できない
D 全く不適切な評価である	D 全く効果が期待できない

2 学校自己評価結果

自己評価基準（ 4:十分である 3:おおむね十分である 2:やや不十分である 1:まったく不十分である・改善を要										3.3以上	2.7以下	学校関係者評価	
領 域	対 象	番 号	具 体 的 評 価 項 目	自己評価			成 果 と 課 題	改 善 の 方 策	自己評価 の適切さ	改善に向 けた取組 の適切さ			
				h30	h29	h28							
学 校 運 営	組織運営	1	生徒・学校・地域社会の実態に即した重点目標、経営方針が設定されている。	3.3	3.1	3.0	重点目標と経営方針に働き方改革の視点を盛り込んだが、保護者アンケートから理解が得られていると判断する。それらの具現化による教育活動も概ね十分である。	今年度中に、育成を目指す資質・能力を策定するなど、国や時代の動向に対応しながら、目指す学校像の一層の明確化・焦点化を進める。	B	A			
		2	学校経営方針が全教職員に周知され、協働のもと課題解決へ向け機動的に取り組んでいる。	3.1	2.9	2.8	各自が自律的に業務改善する意識を高めるとともに、より一層能動的・機動的に業務を遂行する必要がある。	学校課題、方策、解決工程を確実に共有し、分掌主導の組織運営を実践する。	B	B			
		3	各会議・委員会をととして、学年・分掌業務の調整・連携が図られている。	3.0	2.9	2.6	教育環境の変化及び学校課題に対応して、各組織の業務の整理と体制整備が必要である。昨年度に情報部を廃したことで、組織の機能性が増した。	教育活動を分掌・委員会が計画立案し、関係職員全体での実施する体制の整備を進める。	B	A			
		4	時間外勤務の縮減及び教職員の健康を保持する取組を進めている。	2.3	2.4	2.4	部活動指導員の導入やスクールカウンセラーの配置を図るとともに、学校閉庁日の設定、部活動休養日の設定など、学校における働き方改革に取り組んでいる。	管理職のリーダーシップのもと、諸制度を有効に活用するとともに、業務の習熟と計画的・組織的遂行により効率化を図る。	B	B			
	信頼される学校づくり	5	HPの更新や懇談・通信をととして積極的な情報発信・情報交換に努め、説明責任を果たしている。	2.9	3.1	3.1	総務部を増員し、HPの刷新に向けた取組に着手している。総務部の機能性を高めて、より一層の発信力の充実に努める必要がある。	個別にHPを更新するだけではなく、全体としてHPがどうあるべきかを改めて考える。	B	B			
		6	地域の関係機関、中学校、保護者と連携した取組を実施するとともに、PTA活動が活発に行われている。	3.1	3.1	2.9	高大連携への取り組み、文化系部活動を中心とした地域活動への参加、PTAと連携した行事など、教育活動全般で取り組んでいる。	地域人材の活用や幼小中大教育との連携をより一層進める。「総合的な探求の時間」をデザインするなかで、地域との協力関係を模索する。	B	B			
	教職員の資質向上	7	〇教職員各自が不祥事を起こさぬよう服務規律保持を意識し、自己管理が適切にできている。	3.7	3.5	3.7	服務規律保持と自己管理の意識は適切に醸成されてきている。	心に届く職場研修など実効性のある取組を実施し、服務規律保持に万全を期す。	A	A			
		8	〇学校課題に基づいた組織的・計画的な研修が実施されるとともに、教職員各自が校外研修や研究活動に積極的に取り組み、成果の還元を図っている。	3.1	2.9	3.0	道外学校視察をはじめ、管内外の学校視察や研究会等に積極的に職員を派遣するなど、職員の資質向上の充実に努めた。	新学習指導要領や高大接続改革への対応に向けて、実際の取り組みを進めていく。	A	A			
教 育	学習指導 (教育課程を含む)	9	教育目標、重点目標、生徒の実態を踏まえ、教育課程委員会をととし、生徒の自己(進路)実現を図るよう教育課程の点検・実施を行っている。	3.1	2.9	2.9	生徒の実態を十分に踏まえた教育課程の編成に努めてきた。また、新学習指導要領に対応した教育課程の編成に向けて、委員会で検討を開始した。	新たなカリキュラムの原案を作成するプロジェクトチームを編成し、教育課程委員会で具体的な編成作業を進めていく。	B	B			
		10	〇基礎・基本の確実な定着を目指し、生徒一人ひとりが達成感を得られるよう授業改善を行っている。	3.2	3.0	3.0	各教科指導における基礎・基本の徹底指導及び各学年の朝学習・朝テストを実施した。	継続指導及び国英数の実力養成を中心に習慣化を進める。	B	B			
		11	〇授業形態(アクティブラーニング型の研究)や教材の工夫・改善を図り、自ら学び自ら考え、課題解決に主体的に取り組む資質・能力の育成に努めている。	3.0	2.9	2.9	学力向上に関わる研究指定校事業(数学・英語)を活用し、全職員への波及に努めた。	各教科における研修機会の設定、各種研究会参加の成果を全職員へ還元させる。	B	B			
		12	〇評価の観点を明確にし、思考力・判断力・表現力を育成する評価を行うとともに、生徒一人ひとりの学力・学習状況を的確に把握し、個に応じたきめ細やかな指導を行っている。	3.0	2.9	2.8	シラバスに掲載し適切な評価・考査の実施をしてきた。また、法改正に対応し、特別な教育課程が編成できるよう内規を整備した。	今後も適切な評価・考査問題の作成をしていくとともに、時代の要請に適切に対応していく。	B	B			
	生徒指導	13	〇挨拶指導を中心に、身だしなみ・言葉遣いの大切さを理解させ、規範意識の育成や基本的生活習慣の定着を図る指導を機会あるごとに行っている。	3.2	3.3	3.2	生徒指導部を中心に、組織的に挨拶や服装指導を実施した。校外にも目を向け、学校周辺や市内の公共施設などの巡回を実施した。	今後も生徒指導部と学年・担任が連携しながら、身だしなみ、言動、マナー等、外部や社会に通用する生徒の育成を目指す。	A	A			
		14	◎個別面談を活用するとともに、保護者・地域・関係機関との連携を密にし、個々の生徒の変容を的確に把握した指導を行っている。	3.3	3.2	3.1	担任による個人面談を全学年で実施した。また、スクールカウンセラーを導入し、積極的に活用して効果を得た。	スクールカウンセリング制度を有効に機能させる。	A	B			
		15	いじめ防止基本方針に基づき、いじめ未然防止・根絶に向けた取組がなされている。	3.4	3.2	2.9	いじめのサインを把握した際、いじめ防止委員会を開催して組織的に対応した。ネット利用に関するマナー指導の充実に努めた。	ネットパトロールの充実やネットモラル向上のための講演を実施する。教育相談の充実を図る。生徒会主導によるいじめ根絶の取り組みを推進する。	B	B			
		16	◎生徒会活動、HR活動、ボランティア活動の活性化を図るとともに、生徒の自主性を育成するよう指導している。	3.2	3.0	2.8	学校周辺の清掃活動を5回実施したが、生徒会執行部に限らず一般生徒からの参加者が増えた。リーダー研修会を実施し、運営側生徒の資質向上に努めた。	行事や生徒会の意義について改めて指導し、生徒のより積極的な自主的活動につなげていく。	B	B			
	活動	17	〇部活動について、適切な指導計画のもと、自主性を高め、学習との両立を図るよう指導している。	3.3	3.1	3.0	全国大会にはスピードスケート、陸上、写真が出場し、校門前に横幕を設置した。道のアクションプランに基づき部活動休養日を年間73日以上、全部活で設定できた。	部活動を生かし、元気で諦めず粘り強く社会に通用する生徒の育成を継続する。芽室高校部活動方針を策定し、適切な部活動運営に努める。	B	B			
		18	キャリア教育の全体計画に基づき、学年や教科及び関係機関と連携したキャリア教育が実施できている。	3.1	3.1	3.1	計画に基づき、計画的に実施することができた。	今後も進路指導部、学年、教科とより一層連携を深めていきたい。	B	B			
		19	キャリア教育をととして職業理解と自己理解を深めさせ、進路意識を向上させることができている。	3.1	3.0	3.1	インターンシップや就職学習会等を通じ、進路意識を高めることができた。一方、内定者の事後指導に課題が残る。	進路指導部と学年が連携し、内定者の事後指導を強化していく。	B	B			
		20	◎進学・就職に向けて、生徒に各種模擬試験、検定取得、講習、模擬面接や就業体験等へ積極的・継続的な参加をさせることができている。	3.3	3.2	3.3	模擬試験、検定を受ける生徒が昨年より増加するとともに、国公立大学に10名合格や高看合格者の増加など、成果が出た。	講習、模擬試験、検定等を受けるべき生徒を学年と連携しながら把握し、進路指導部が中心となって指導していく。	A	B			
健康・安全指導	21	進路に関する情報・資料の収集・活用、生徒・保護者への情報提供・相談を積極的に行っている。	3.2	3.1	3.2	本年度はPTA進路講演会を進学向けと、就職向けの2会場で実施できた。また、有料の模試分析システムを導入し、指導の充実に努めた。	来年度も進路講演会を進学(大学・看護)、就職(公務員・民間就職)に分けて、内容の充実に努める。ファインシステムの全教員への導入を進める。	B	B				
	22	家庭・地域と連携し、社会人として必要とされる能力を高め、進路希望を実現させることができている。	3.1	3.0	3.0	インターンシップの充実に努めた。また、ボランティア活動に一般生徒も参加させた。	芽室町夏休みボランティア、大谷短大のインターンシップに参加するように促していく。普段の進路指導のなかで、必要な能力の育成に努める。	B	B				
	23	健康安全意識の高揚を図るとともに、実効性のある保健講座(薬物乱用防止・性に関する指導など)を行っている。	3.4	3.3	3.2	年間計画に沿って計画的に実施している。	外部講師の選定、講座内容について精査し実施していく。	B	B				
	24	◎保健室利用状況から生徒の実態が把握され、養護教諭と担任・家庭との連携が密にとれている。	3.5	3.3	3.3	養護教諭、担任、教科担任間の連携、保護者との連携を取りながら生徒の実態把握に努めている。	今後も継続していく。	B	B				
	25	教育相談や特別な支援を必要とする生徒への指導について、関係機関との連携と体制整備が図られている。	3.2	3.0	2.8	教育相談委員会を中心に、スクールカウンセラーを活用した相談体制の充実を図ることができた。	引き続き、関係機関との連携を深め、相談体制の充実を図っていく。	B	A				
	26	交通安全・防災の意識及び危機対応能力を高めるよう、関係機関と連携し、AED講習・避難訓練などをとし効果的な訓練・指導ができている。	3.4	3.4	3.1	道警による防犯教室を実施するとともに、AED講習会や避難訓練を芽室消防署の協力を得て実施した。	ホームルームや集会等、機会ある毎に交通安全、防災について呼びかけ指導を継続していく。	B	B				
	学 校 運 営	27	◎教育活動に支障がないよう、全職員が協力し、校舎内外の施設・設備の点検・維持管理が適切に行われている。	3.1	3.1	2.7	予算が不足する工事については予算申請(8件)を提出し、4件分の予算が配分され、工事を実施できた。	北海道の財政状況等を鑑み、継続的な予算申請を行い、道教委に対して毛企画的に現状の理解等を訴えていく。	A	B			
		28	事務と各分掌・学年・委員会との連携(窓口業務を含め)が密にとれている。	3.3	2.9	2.9	学校予算では対応できない備品予算の要望等を行い、除雪機を更新するなど、適切に処理を行った。	予算の現状を各分掌・学年・委員会等と情報を共有する。	B	B			
		29	〇学校事務効率化のために全教職員の協力体制が確立されている。	3.2	2.8	2.9	事務用品や管理物品については、事務担当者が数量を把握しており、物品購入の効率化は一定程度図られている。	各種書類や要望について速やかな連絡を引き続きお願いをする。	B	B			
		30	全教職員の理解のもと予算が適切に執行され、外郭団体における会計処理が適切に行われている。	3.3	3.1	3.0	公金については年度当初配分予算の概況を教職員及びホームページにおいて公開している。また、私費会計についても予算書・決算書を作成し、適切に処理できた。	教職員の情報共有を図り、予算が必要となるものについては事前に打ち合わせを行い計画的な執行に努める。	B	B			